

## 平成24年度第2回京都市図書館協議会摘録

- 日 時 平成25年3月6日(水)  
13時30分～15時30分
- 場 所 京都市生涯学習総合センター 3階 第3研修室A
- 出席委員 [10名中8名出席]  
大角 安史 委員  
岡田 優子 委員  
日下部 潔 委員  
五島 邦治 委員  
直江 秀樹 委員  
永田 信一 委員  
畑中 恵美子 委員  
正木 隆之 委員 (五十音順)
- 傍聴者 なし

### 1 開会

- (1) 中央図書館長の挨拶

### 2 報告事項

事務局から資料に基づき、以下の項目について報告した。

#### (1) 京都市図書館システムの更新について

- ・平成25年2月8日から市民の皆様の更なる利便性の向上を目指して、5年ぶりに図書館システムを更新し、新たなサービスを導入した。

システム更新に伴い充実した機能は

- ①予約かごの導入…アマゾンや映画チケット販売など他の職種のホームページ(HP)でも導入されている。従来は資料を1点予約するごとにカード番号とパスワードが必要であったが、「予約かご」方式を採用することで、一度に複数の資料が予約できるようになった。
- ②簡易検索の設置…図書館ホームページのトップページに簡易検索ボックスを設置し、これまでのように「資料検索」ページを開かなくても簡単に資料が検索できるようにした。
- ③「新着お知らせメール」の配信…あらかじめ利用者自身に興味のあるジャンルを設定していただき、そのジャンルの新着資料が入った際にメールでお知らせするサービスを導入した。
- ④「予約確保メール」に資料名を表示…予約資料が用意できたことを、ご希望の方にメールでお知らせする「予約確保メール」に要望の多かった資料名を明記した。
- ⑤予約情報の即時更新…これまでインターネットを通じての予約等は夜10時に確定するシステムであったが、新システムでほぼリアルタイムに情報更新されるようにした。
- ⑥ホームページの充実…親しみやすく見やすいレイアウトへ変更し、リンク集の充実や各種お知らせを活用した積極的な広報を行っていく。またホームページ内に学校連携専用ペ

ージを設け、学校団体貸出の申請書のダウンロードができるようにした。

## (2) 子ども読書の日記念事業について

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものである。この活動を推進するためには、あらゆる世代において読書への興味を呼び起こし、活動しやすい環境づくりをする必要がある。そのため、京都市図書館においては4月23日の「子ども読書の日」を中心に記念事業を実施する。なお、平成25年度は前年度に引き続き「親子で読書を楽しむこと」をテーマとすると共に、今年度は特に、読書離れの始まる中学生にも焦点をあてた事業を企画する。

- ・実施期間 平成25年4月13日(土)～4月26日(金)
- ・会場 各京都市図書館、京都市生涯学習センター(京都アスニー)等
- ・内容

### (1) 絵本作家・山本忠敬氏 原画展、ギャラリー・トーク

- ・「のろまなローラー」「しょうぼうじどうしゃじふた」でおなじみの、乗り物を中心とした絵本で子どもたちに夢を与え続けた故山本忠敬氏の原画の展示
- ・原画展初日に、洋子夫人によるギャラリー・トーク

### (2) 中学生ビブリオ・バトル

- ・ビブリオ・バトルとは、お気に入りの本を紹介しあい、一番読みたくなった本に参加者全員が投票し「チャンプ本」を決めるゲーム感覚の書評合戦のこと。当日は、考案者の立命館大学工学部准教授 谷口忠大氏のお話も予定

### (3) バリアフリーおはなし会

- ・障害の有無にかかわらず、一緒におはなしを楽しむバリアフリー企画。アスニーでもご活躍の琴演奏家・梶寿美子氏、布人形作家・大江委久子氏にご協力いただき、視覚に障害のある子ども達にも楽しんでいただけるように「布人形」を触りながら、おはなしを聞いていただく

### (4) 国際(多言語)おはなし会

- ・京都日本語学校の学生の方にご協力いただき、外国語絵本の読み聞かせや、外国の手あそびなどそれぞれの文化を紹介していただくことで、多文化理解の一助となるように企画

### (5) 伝承あそび

- ・親子で楽しめる伝承あそびの会

### (6) 「子どもの読書活動推進のための懇談会」メンバーによる活動報告

- ・各加盟団体の活動を、配布物資料等により報告

### (7) 本のもりのコーナー

- ・おすすめの本を年代別に選定したブックリスト「本のもり」で紹介している本の展示及び貸出し

### (8) おたのしみ会等

- ・小・中学生、PTA、子ども文庫、図書館職員等による絵本の読み聞かせや紙芝居、エ

プロンシアター等の趣向を凝らした親子で楽しめるおたのしみ会を全館で実施

#### (9) 読書絵はがき展

- ・市内の保育所(園), 幼稚園, 小・中・総合支援学校から応募のあった「読書絵はがき」展示

#### (10) 地下鉄子ども文庫

- ・リサイクル本コーナー

市民の皆さまからご提供いただいた絵本・児童書のリサイクル本を無料で持ちかえっていただくコーナー ※冊数制限あり。入場(選書時間)は、事前に指定する15分間

※リサイクル本コーナーへの申込

(応募資格) 小学校3年生以下(保護者同伴)

(対象) 事前に往復はがきで申し込んだ親子80組

(会場) 市営地下鉄東西線「京都市役所前」駅 改札付近

- ・しおりづくりや地下鉄お絵かき, 市営地下鉄の制服試着体験など参加自由のコーナーも設ける

#### (3) 平成24年度「窓口サービス評価アンケート」実施結果について

- ・目的 不特定多数の市民等が来館する職場において, 職員の接遇を中心とした窓口サービスについて, 来館者に評価していただき, その結果を基に改善を図ることで, 「笑顔・親切・丁寧・テキパキ」を基本とする窓口サービスの実践を進める。
- ・実施方法 来館者が職員の接遇を中心とした窓口サービスについて, 別紙アンケートによる評価を行う。評価は「満足」, 「不満」, 「どちらでもない」の3区分。
- ・実施期間 平成24年9月～10月の期間の5日間
- ・実施結果 回収数(全18館) 6,065枚  
評価結果については, 10項目のうち9項目で80%を超える方(うち4項目について90%を超える方)から「満足」の評価をいただいたが, その一方で案内表示では「満足」の割合が低くなるなど, 改善を求める声も寄せられた。
- ・実施結果を受けての対応  
京都市図書館では実施結果を受けて, より皆様に満足をいただける図書館にしていくため, 全職員を対象とした市民窓口対応研修を実施し, 利用者の皆様の立場に立った明るく親切な対応をすることを再確認するとともに, 各館でもいただいたご意見に対する改善策を検討し, 速やかに実施する。なお, 実施結果及びいただいた御意見と改善策については, 各館に掲示し, 利用者の皆様に提示した。

#### (4) 醍醐図書館休館に伴う移動図書館の臨時巡回について

東余熱利用センターの施設改修工事に伴い, 醍醐図書館は平成25年1月23日から平成26年3月31日(予定)の間休館する。そこで, 醍醐図書館が再開するまでの休館期間中, 利用者の利便性確保のための臨時措置として, 次のとおり移動図書館の巡回を行うこととする。

- 実施期間 平成25年3月2日～平成26年3月（予定）
- 巡回日時 平成25年3月2日から原則月2回土曜日に実施
- 実施場所 京都市いわたの森市営住宅集会所前（※京都市立石田小学校東隣）
- サービス内容 移動図書館車の巡回による貸出・返却・貸出延長手続・予約申込等

### 3 報告事項に関する質疑応答

意見： インターネットのシステム更新について、主に館外利用者向けのシステムに関しての報告を受けた。職員用の端末も変えたとのことだが。

回答： どちらも業者は同じである。職員用は、一緒に使うのに別々のページになっているなど使い勝手の悪いところを変えた。容量を大きくしたのでスピードアップした。

意見： 感想として、システム更新後、スマートフォンで便利に対応できて身近になって良いと思う。ビブリオバトルは中学生に良い形で焦点を当て、またバリアフリーおはなし会「布絵劇場」もポイントをしっかり押さえられている。昔を知っている者からすると、近年の京都市図書館は様々な知恵と工夫で頑張っておられると感心している。

意見： ビブリオバトルに参加すれば投票できるのか。

回答： 投票できる。

意見： ビブリオバトルは元々大人向けのものだったと聞いているが。

回答： 大学の先生が考案してサークルから日本全国に広まった。東京都では猪瀬知事が都立・私立を含めた全高校でビブリオバトルを開催するように働きかけたというニュースも聞いている。

京都では今年、京都市立八条中学校で行われ、学校300人のうち一割の生徒が参加した。オーディエンスもみな中学生で、大人の私たちが見学しているのでいつもより緊張していた。男子生徒が多いのに驚いた。みな楽しいから参加するのだと思った。残念なのはバトラーが原稿を読みながらだったことだ。とつとつでもいいので、自分の言葉で話すことでもっと心のキャッチボールができると思う。

意見： 前回の図書館協議会でも、中学生の読書の振興を図るための取り組みを行おうという話をした。

意見： 昨年の6月に、白水社から京都府・京都市の公共図書館、学校図書館に、ティーンズ層（中・高生）がどんな本を望んでいるのか、商業ベースでキャッチしたいのだろうが、現場の先生方と意見交換をできないかという提案があった。中央図書館にも依頼があり、司書や小中学校の先生私立図書館司書、ティーンズ関連の各出版社が参加した。この交換会から得るものとして、出版社側は、本を売るため読者層の開拓という目的もあるだろうが、若い読者に良質な出版物をいかに普及していくか、今の若者が望んでいるのは何か、教育現場ではどのように考えているのかを常に考えており、積極的な観点の話は参考になった。

来年8月8、9日くらいに近畿全体の学校図書館協議会夏季近畿大会が京都で行われる。1,000名参加の予定で、他府県からも参加される。現場の中学校や小学校の先生と司書とのつながりの会のようなもの。その時にビブリオバトルを行う予定で、会長は八条中学の岸野校長先生である。このようにして中学高校生くらいの生徒に刺激を与えるという取り組みをしていく。

公共図書館の方からは熱心にお話を<sup>ほう</sup>して頂いている。中学校の方は、それに<sup>ほう</sup>応えるだけの取り組みは残念ながら現在まだできていないが、危機感を持った職員は増えてきている。生徒達に対して何か自分たちでできないか、という思いを持つようになった職員も増えてきている。

意見： 前述のビブリオバトルだが、一般の方も観戦できるのか。

回答： 今の中学生がどのようなことをするのか、中学生だけでなく、一般の方にも見ていただきたい。

意見： ただ、翌週5月4日のみどりの日ぐらいに、京都全市の部活動の春季大会開会式があり、20日は大会前の大事な練習日にあたる。部活動を行っている子供はこの時間帯には参加できない。時間帯をお昼にするのは構わないが、この取り組みが中学生をターゲットにしているのなら、部活動をしている中学生は参戦できない。

回答： 「こども読書の日」が4月23日と設定されてから、このことは課題になっている。学校も新年度が始まってクラスがまだなじまない状況の中で、参加しづらい時期もあることは重々承知してはいるが、何とか多くの方にご参加いただけたらと思う。

意見： 私はPTAの会長をしている。こういう取組が学校図書館支援員を通じて、学校に広がっていくと良いと思う。参加者にビブリオバトルを知ってもらい自分の学校へ持って帰ってもらいたい。学校では、モニターでビブリオバトルの様子を休み時間や給食の時間に流すなどやり方は色々ある。

意見： インターネットサービスについて。システムが新しくなると聞いていたのだが、見たらあまり変わりがないと感じた。しかし、今日の説明を聞いて色々なところで利便性が上がっているとわかった。5年に1回の更新だが、マイナーチェンジではなく、いずれどこかでフルモデルチェンジをする必要がある。

民間ではすごく新しいことをやっている。リブライズというネットの「すべての本棚を図書館に」という活動がある。これは例えば、喫茶店に何冊かの本があり、私の勤務する施設にも本がある。それらの本をバーコードで読ませることで、どの場所にどんな本があるかがわかり、貸し借りもできるしくみ。これが広がっていけば、図書館の役割は終わるくらいの面白い試みになる。大学の図書館がこれにつながりかけている。新しいことが増えていって、フェイスブックを使った例では感想文を交換し合うページも沢山ある。今の時点で5年先に図書館としてどうするかを考えて欲しい。

回答： インターネットサービスで図書館の役割は終わる、というご意見に関して、館の立場として感想を述べたい。前述のリブライズ等はみんなで本を読むという「共読」にあたる。本というのは、本来孤独に読む「個読」だったのが大きく形を変えつつある。従来からある紙媒体の活字本を皆で共有して読むという観点でいうと、やはり電子媒体は「共読」に耐えられないのだろうという判断があるので、リブライズなどが出現してきたのであろう。しかしこの方法が完全かというところではなく、私はだんだん「個人」というものがなくなるのではないかと考える。一人一人が「個読」に読んで一人一人のカルチャーを作るということではなくて、どうしたってみんなで読めばみんなの意見になってしまう。読書へのとっかかりとしてはいいが、着地点としては果たして完全な方法なのか。他者からの情報を確認するとか「個読」を形成するとかについて有効であれば、このビブリオバトルも

図書館事業として行っていかなければならない。

意見： 共同で何かをすることによって、かえって本質からズレていくこともある。考古資料館の場合は、考古学関係の本を通じて実物に興味を持つようにしている。ビブリオバトルでも本来の本に興味をもってもらえるような工夫が必要だと思う。

回答： 一緒に本の感想を言い合うのは、無理やりは嫌だろうが、本好きな人は知らず知らずのうちに、人に自分が読んだ本の感想を言い合ったりしている。大人の方にもそういった場所を提供したい。ビブリオバトルもそのために活用してもらいたい。

意見： 最後に移動図書館について。昭和25年から始まっているそうだが、この活用の状況について説明して欲しい。

回答： 移動図書館の貸出冊数は市全体の貸出冊数の1パーセントで経費的にも大変だが、図書館を利用しづらいエリアの一人一人への取組として大切にしたい。

意見： 世の中は多面的になっている。子どもはインターネットに興じているが果たしてそれだけで良いのか。移動図書館は昔のお寺の様に、そこに集まる大人、子ども双方に人の絆を結び、おすすめの本を紹介しあったりして、良いコミュニケーションの場にもなっていて理想的だと思う。インターネットは若い人やビジネスパーソンには良いだろうが、紙の本は高齢の人、インターネット環境にない人にとっても大切であり、図書館の存在価値は大きい。日本では、高齢者や障害者へのサービスが基本になっている。サービスが多様化して館員の仕事が増えていっているように思う。

意見： 様々な意見が出たが、要は本を読むのに何が大事かということ。私は学生時代、夏休みの宿題では読書感想文が一番嫌だった。本を読むことは好きだが、感想文を書かなくていけないと思うと嫌になった。ビブリオバトルがそうならず、読書の楽しさを引き出せば良いと思う。

#### 4 協議事項

今回の協議会は委員の皆様の任期2年の最終回にあたるため、これまでの協議会でいただいた主なご意見と課題を整理するとともに、実施状況の説明と今後の方向性・課題についての協議としたい。

##### ●他機関・地域団体等との連携の拡大

実施状況	実施中
取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 植物園「私の好きな木事業」との連携（中央）</li><li>・ 区役所まちづくり支援事業の活用（東山・山科・久我のもり）</li><li>・ 地元読書団体との連携「洛西読み聞かせの会」（洛西）</li><li>・ 中京区役所事業（京都みつばちガーデン見学ツアー）との連携（中央）</li><li>・ 聚楽保育所との連携「小さなおはなし会」（中央）</li><li>・ 立命館大学司書課程カリキュラムへの協力（中央）</li></ul>
取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・ インターンシップの受け入れ（大学・総合支援学校・社会人）</li><li>・ 市会図書室への貸出支援（中央）など</li></ul>
今後の方向性・	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 連携先の開拓により、地域イベントでのブックトークや出前貸出など図書館資</li></ul>

課題	料を幅広く市民に有効活用していただけるような取組の推進を図る。 ・いかに連携先を広げていくかの方策について検討が必要。
----	--

### ●中学生への読書活動の働きかけ

実施状況	実施中
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生への出前読み聞かせやブックトーク（中央・醍醐中央・醍醐）</li> <li>・中学生への読み聞かせ指導（山科）</li> <li>・特別展示「中学生が選んだ私のこの一冊」（中央・北・左京）</li> <li>・ティーンズコーナーの設置（中央・右京中央）など</li> </ul>
今後の方向性・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用や読書活動の取組が少ないとされる中学生に本や読書への関心・興味を持たせるきっかけづくりに視点をおき、取組を進める。</li> <li>・平成25年度「子ども読書の日記念事業」では、中学生を取組の中心に据えた中学生ビブリオバトルを実施する。</li> <li>・チャレンジ体験を契機とした働きかけの充実を図る。</li> </ul>

### ●地域団体等が利用しやすい図書館資料貸出制度の創設

実施状況	実施中
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の読書活動を目的とした団体への貸出に加えて、広く地域団体にも対象を拡大し、図書館資料の貸出を行う「協力貸出制度」を創設した。</li> </ul>
今後の方向性・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体が利用しやすい制度として「協力貸出制度」の周知を図り、地域のイベント等で積極的に図書館資料を活用いただけるように取り組む。</li> <li>・また、その中から図書館との連携拡大にもつなげていきたい。</li> </ul>

### ●地元情報の活用と資料提供

実施状況	実施中
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北区今昔写真展」市民から100点の貴重な写真提供を受け実施（北）</li> <li>・「区内統合校の思い出写真展」,「東山区に残る戦争関係資料展」,「図書館から始める文学まち歩き」壺壺を辿るマップの作成（東山）</li> <li>・「山科を知ろう」山科の歴史講演会シリーズの開催,「山科区のたからもの」地域のたからものを示した地図を展示（山科）</li> <li>・「薬膳講習会と地元の野菜即売会」地元共催イベントの際に関連図書の展示と貸出を実施（久我のもり）など</li> </ul>
今後の方向性・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざした図書館として、積極的に地元情報を収集・整理し、利用者に提供していく。</li> <li>・地域の利用者との繋がりや情報を活かした企画を各館で展開していく。</li> </ul>
今後の方向性・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一過性の取組に終わらせず、継続的な資料整理・保存・提供により、取組終了後も更なる広がりにつなげていく。</li> </ul>

## ●返却ポストの増設による利便性の拡大

実施状況	実現したいが課題があり，引き続き検討する。
取組実績	<p>&lt;平成 21 年度設置&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄京都市役所前駅</li> <li>・京北合同庁舎</li> <li>・地下鉄醍醐駅，太秦天神川駅（地下鉄駅の地上 1 階に設置）</li> </ul> <p>&lt;平成 22 年度設置&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄北大路駅</li> </ul>
今後の方向性・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の更なる利便性向上に向けて取り組む必要があると認識しているが，設置経費や回収経費などの予算面，設置場所の確保面，図書の回収・管理面などに課題がある。</li> <li>・こうした課題を克服するため，既存施設の有効活用や協力依頼，回収方法などについて経費節減方策を考慮しながら検討を進めていく。</li> </ul>

### 5 協議事項に関する質疑応答

意見： 協力貸出制度は新しい制度のようだが，できてからどのくらい活用されているのか。

回答： 前々から協力貸出のようなことはしていたが，制度としては最近つくった。運用はこれからである。申し込みがあっても，地域館だけでは対応できない課題もあり，その点は中央図書館でフォローし，進めていく。

意見： 協力貸出については，最近の文庫活動は自宅を開放してではなく，レンタルオフィスを借りて活動している方たちも増えているので，そういうところにも声をかけるとよいのではないか。また地下鉄駅に図書館の情報を提供し，ビジネスクラスに働きかけてはどうか。

意見： 返却ポストの管理は大変なのか。

回答： スペースの問題がある。返却ポストはある程度利用の多いターミナルに設置しているが，輸送トラックは返却ポストだけではなく，各図書館を回っている大型車なので，停車する場所を確保するのが難しい。

意見： 返却ポストについては利便性を考えると四条烏丸にサテライトが一件欲しい。無理なことだろうが，返却だけでなく「郵便局」のような窓口を設け，予約した本を受け取ることができたら嬉しい。

四条烏丸に回収トラックを停めるスペースがないのであれば，公共交通を使って搬送してはどうか。市営地下鉄の利用は京都市にとってもいいのではないか。また図書館がいつあいているのかよくわからない人もいるので，返却ポストに近くの図書館の開館日や開館時間を掲示しておくとうまいと思う。

意見： 利用者にアンケートをとって，どの場所にポストを設置して欲しいか意見を聞いてみてはどうか。

意見： 返却だけなら，図書館に行かなくても可能とすることで利便性は向上するが，その利便性を求めているのは通勤者だけなのか，というと違う。通勤されていない家庭の主婦や高齢者の利便性はどうするのか。盲点を考えていかななくてはならない。先ほどのご発

言の中の「郵便局」というのはすばらしい。昔の特定郵便局は私設で個人が地域の公的な役割を担っていた。同様の役割を求められているのは学校であろう。学校は地域に密着しており、学校も図書館と共に教育委員会に所属している。まさに学校も公共施設の一環だと考え、最初から地域の核としての使命を担っていると学校側が考えてくれると良い。そういう意味でも学校に返却ポストを置くという考えは良い。

回答： 学校を文化発信基地にしたいと考えている。今年度は文化祭や体育大会のご案内を、ご近所200軒くらいに配布した。市内の中学校では土曜学習を行っている。例えば、私が勤務する中学校では勉強以外に茶道の学習もしており、3月23日には幼小中交流で幼稚園・小学校・保護者に案内を出してお茶会にお招きする。このように、土日、中学は部活動などで校門を開けている。返却のみなら正門の横に返却ポストを設置して返却してもらうこともできる。週に1回土曜日の午前中とか決めれば、学校は協力できる。

回答： ありがたい。京都市では最初は貸出を目的として、各区に分散して図書館を作ったので、図書館に来て本を読んでもらうということを目的としていない。右京中央のようにゆったりとした読書空間があると、年間66万人近い方がどっと来る。館を広げたいが、中央図書館を最たるものとしてこれ以上広げようがない。あとはアスニーをまるまる貸して頂くしかないが、これもなかなか難しい。これらを補うような図書館機能の拡大の提案は非常にありがたい。

意見： ビブリオバトルについて。今、若い人達の間で俳句バトルなどが人気と聞くが、ビブリオバトルも、若い世代を取り込む手段として面白いと思う。また、図書館のスタッフが自ら楽しんで取り組んでいることも、見ているものに刺激を与えるだろう。私自身は、京都市の図書館について特に改善点が見つからない。貸出数・登録数の伸びが鈍化してということで、無理に改善点を考えることも必要だが、子どもにつられて親がやってくるとか、知り合いの一人が行事に参加するといっしょに人が来るような楽しい空間であってほしい。

意見： 右京中央図書館には広いスペースがあり、敷地内には喫茶店もあって人が集まってくる。このような空間が望ましいですね。

回答： 施設の拡充が望めない場合、機能別図書館を目指す方向もある、例えばビジネスに特化した図書館など。しかし、一方で不便さももたらす。この辺りをどう考えていくか。

意見： 原則的なことになるが図書館には「発見」があって欲しい。私の経験になるが、大学の時に読んでもう一度読み直してみたい本に図書館で遭遇した。棚を見ていたから新たな発見があった。そういう「発見」を導入できないか。若い時にこういう本を読んだが、家にはもうない。その本を図書館で見つけて一日ゆっくり読む。それは大きな喜びにつながる。そういう機会が作れたらと思う。具体的にはどうすればいいかということもあるが。

意見： 「発見」というと、私が好きなのはテーマごとにある平台展示。センスがあると思う。

意見： ところで気になったことがある。古い本はどうなっているのか。昭和30年代から40年代の本で、私が影響を受けた本はどうなっているのか。私はたまたま見つけることができたが、普通は廃棄しているのか。

回答： 保存しているものもある。できるだけ保存するようにしている。昔の本で自身が題名を

覚えていないと、閉架されているので見つけれない。テーマ展示は一つのテーマで新しい本も古い本も並んでいる。今やっているのは、児童書のコーナーで昭和 30 年代に流行った児童書で、普段書庫に入れているものを出してきて展示している。

回答： 欲しい本を見つけるのは簡単なことではないのかな。レファレンスで聞いてもらおうと、司書が探し出し必ず巡り合える。

回答： リクエスト頂いたら何らかの方法でご用意できる。

回答： 数十年くらい前の本が開架されていない。スペースの関係でみんな閉架式になっていることは残念である。他にも、禁帯出の本を減らしたらと話している。

意見： 図書館は本当に知識を得られる場所だ

回答： アメリカで電子書籍のステーションを図書館にするという話があるが、それはATMの端末と変わらないから図書館と呼ぶ必要はない。図書館というのは本が並んでいて司書がいるところに価値がある。そもそもの目的だけではなくブラウジング（うろうろ）しているところについでにこれをという発見がある。そういう部分を大切にしたい。

意見： 外国の図書館児童室には、相談できる司書が必ずいるが、日本はそうっていないのが残念だ。日本は遅れている気がする。

意見： 日本の司書は子どもにとってはカウンターの中にいるお姉さんのイメージ。レファレンスをもっと身近にするためには、フロアワークが必要。インターネット検索だけでは不完全。

回答： 職員は皆、フロアワークの必要性を感じていてカウンターの外に出たいと思っているが、日常業務に追われ、余裕がないのが現状だ。

意見： 司書の活動幅をもう少し広くしてほしい。貸出やレファレンスといった本務や、資料を収集・調査・公開するだけではなく、地域と更なるつながりを持って欲しい。これは大事なこと。京都市は今いろいろな取り組みをやっていて、桃山の「桃を探索しよう」では、桃山地域に昔あった桃山を復活しようと、私は地元の人と一緒に地元に残った民話を集めている。そのような場に図書館の司書がいれば色々教えてもらえることができる。そうすると図書館の活動ももっと広がっていくような気がする。私が伏見をまるごと博物館にしようと、一年ぐらい前に醍醐中央図書館に話した。すると司書が、伏見に関するいい資料があると話してくれたが、この取り組みにその司書さんが参画するのは難しそうだった。図書館に行くと、司書はきめ細かく色々配慮をしてすごいと思うが、司書の資料知識をもっと外に向かって発信し、住民とともに事業を行うことで、その活動に広がりができると思う。それを行うための制度として、司書が地域に出て行けるような仕組み作りは、できているのだろうか。活動が、館内だけに留まっているような印象がある。

回答： なかなか余裕がないが、そうするためには図書館がこういうことをしているという実績を作って、それなら充実させていこうかと思ってもらう必要があると考えている。

意見： 「東山街歩きマップ」は続いて出されるのか。

回答： 本当はさらに違う本のテーマで作っていく必要があるのだが。

意見： いいことだ。東山図書館だけで考えるのではなく、図書館全体で考えればできると思う。

意見： 二条城北小学校を会場にして、二条中学校区地域生徒指導連絡協議会主催で埋文の研究員の方に来ていただいて、校区の歴史を知る家庭教育講座を開催した。満員だった。遺跡

マップを作っていて、自分の子どもが通っていた学校から発掘された遺物がどんなものかわかる。中学校には展示する場所がないから遺物を展示しておらず、かつて発掘された時の写真が一枚だけしかない。また、遺跡マップには民部省の跡とかは書いてあるけれども、実際にはどんなものかわからない。専門的な知識をもった方が民部省はこういうところだと説明し、重なりの中でこういう歴史があったというお話をされたら、みんな興味津々だった。小さい子も来ており、発掘されたお金にだけ興味を示していたが、それでも一生懸命聞いていた。来場者からは質問もたくさん出ていた。地域を知るといふ活動は学校だけではやれない。市民講座のような形のもを、学校の場所を使って市民の方が来やすくして、専門の方に来ていただいてお話をさせていただくなどすればどうか。二条城北小の時には、「もう少しお話を聞きたい方は埋蔵文化財に来てください」とおっしゃっていたが、そこに関連図書が置いてあったらいいと思う。図書館がもっている財産をうまく利用すれば地域に開かれてよい。

意見： 市民は意外と地元のことがわかってない。京都のようなところは歩いて見てみる、確認してみる、という手法を使う。それと図書館というものの連動、本とのからみの中でやっていると、京都でしかできない京都のおもしろさに気づく取り組みになると思う。色々なところがあって、色々な状況が、地層だけの問題ではなく地点的にもたくさんあるので、歴史学の手法と本を読むということがつながるといふ接点を、どこでどの場所でどう作るかだ。もしそれができれば、おもしろい、京都独自のことができると思う。

意見： 今回の協議会は任期の最後にふさわしく、発展的な可能性のある意見が各委員の方から出て良かった。